

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

○音楽科における取組

♪歌唱

合唱コンクールの時期に毎回の練習を録音し、曲想表現が十分か、適切かを試行錯誤した。歌のテストをタブレットに向かって行って見たが、声量が十分に計測できずあまり有効ではなかった。ただし、不登校の生徒にとっては有効であった。

♪器楽

箏の授業で、「押し手」の奏法のときに手元の動画を撮影して、自分の手の形を客観的に見ることで演奏の改善につながった。また、改善点を言葉で表すことが難しいときに視覚的に理解させることができた。また、三味線の授業では見本の動画をTeams上に掲載し、自分の近くで自分が必要なときに確認できるようにした。

♪創作

音楽webアプリを使って授業を行った。旋律の動きや重なりを視覚的に捉えることができ、生徒の意欲が高まった。

♪鑑賞

パワーポイントを使った共同編集や電子黒板を用いた授業を行った。鑑賞の途中で表現のヒントを送ることも効率的に行うことができた。



○美術科における取組

美術科では、主にデザインの分野で、参考資料の検索としてタブレットの使用を許可している。左の写真は、3年生の「自由画」の実践の様子である。

①「個別最適な学び」

「自由画」では、その題材名の通り、自由に取り組んでもらう。今後、美術の授業のない学校に進学する生徒もいる。そのため、義務教育9年間最後の作品として、今まで学んできたいろいろな題材・用具・技法などを思い出し、すべて自分で決めて制作する。テーマをはじめ、何をやりたいのか、何の用具を使うのか、そして資料集めなど、まずは、主体的に取り組んでもらう。

②「協働的な学び」

各自の作品が完成したところで、最後に鑑賞の時間がある。自分の作品の発表では、テーマ・描き方・用具の説明なども含めて発表するため、逆に、他の生徒の発表のときには、自分とは異なる考え方や取り組み方に触れながら学びを深めることができる、という対話的な鑑賞の授業になる。

③まとめ

主体的な作品制作と対話的な鑑賞により、生徒たちもとても意欲的に取り組んでいた。